



## 【東部振興局管内】

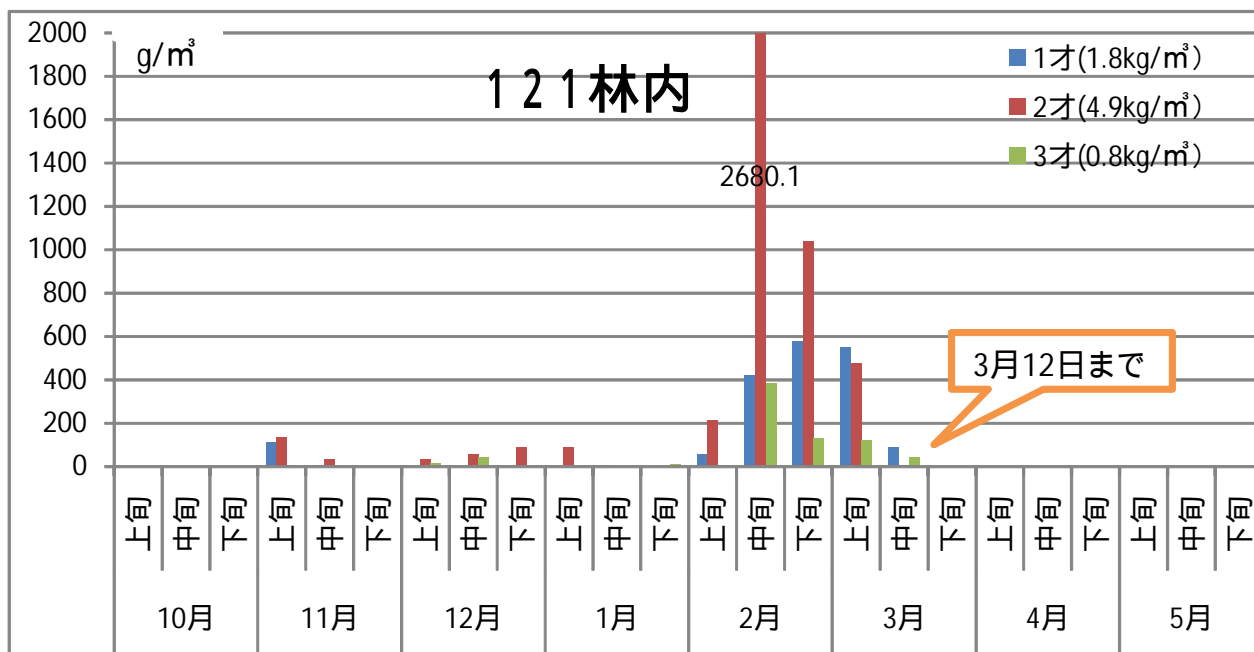
# しいたけ普及指導情報 第13号

今年の発生量(H20秋～H21春)は、豊作であった昨年(H19秋～春)に比べ、「厳しい」との声を多く聞きます。皆さんのところは、いかがでしょうか。

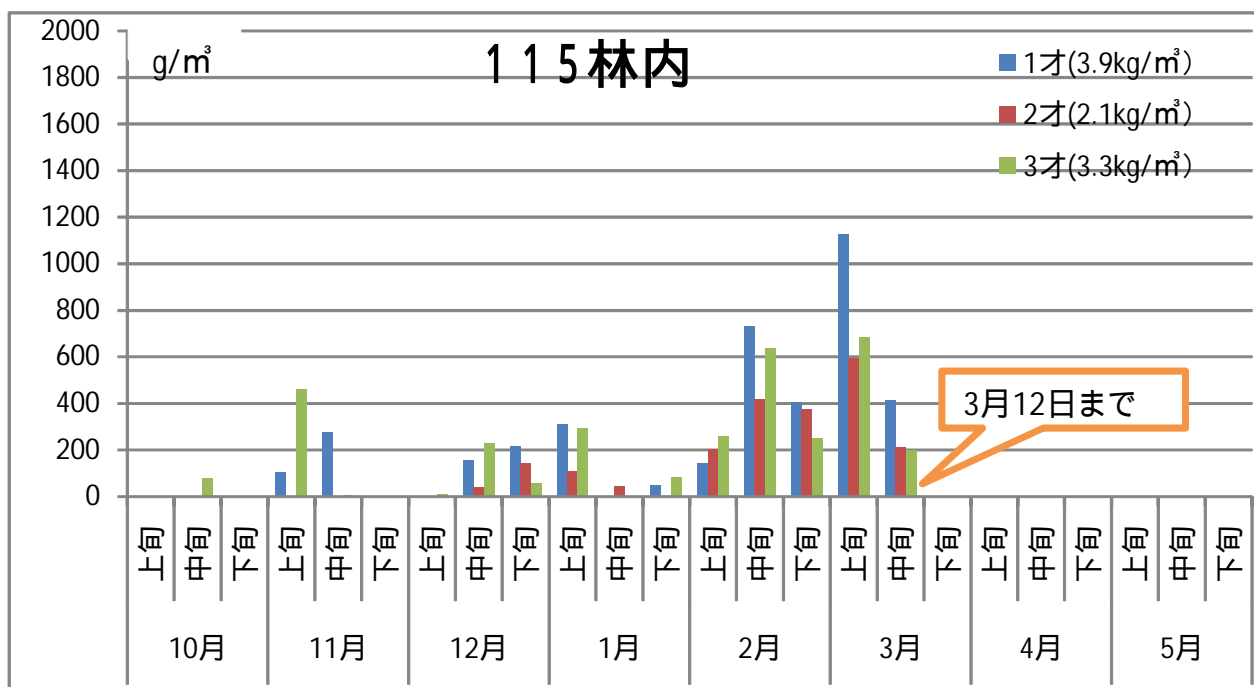
### 1 単収向上

(1) 昨年秋から本年のしいたけ発生状況について  
 20年秋子は、10月までの気温が高く、11月に入り急に平年値まで気温が下がったことにより発生が遅れ、全般的に不作に、春子については、1月下旬の降雨とその後の気温上昇を受け、大半の地域で2月中・下旬にピークを迎えた状況となっております。  
 ちなみに、きのこ研究所(標高150m)で調査している品種毎の発生データ(ほだ木つくり時は水分管理を実施)は次のとおりです。

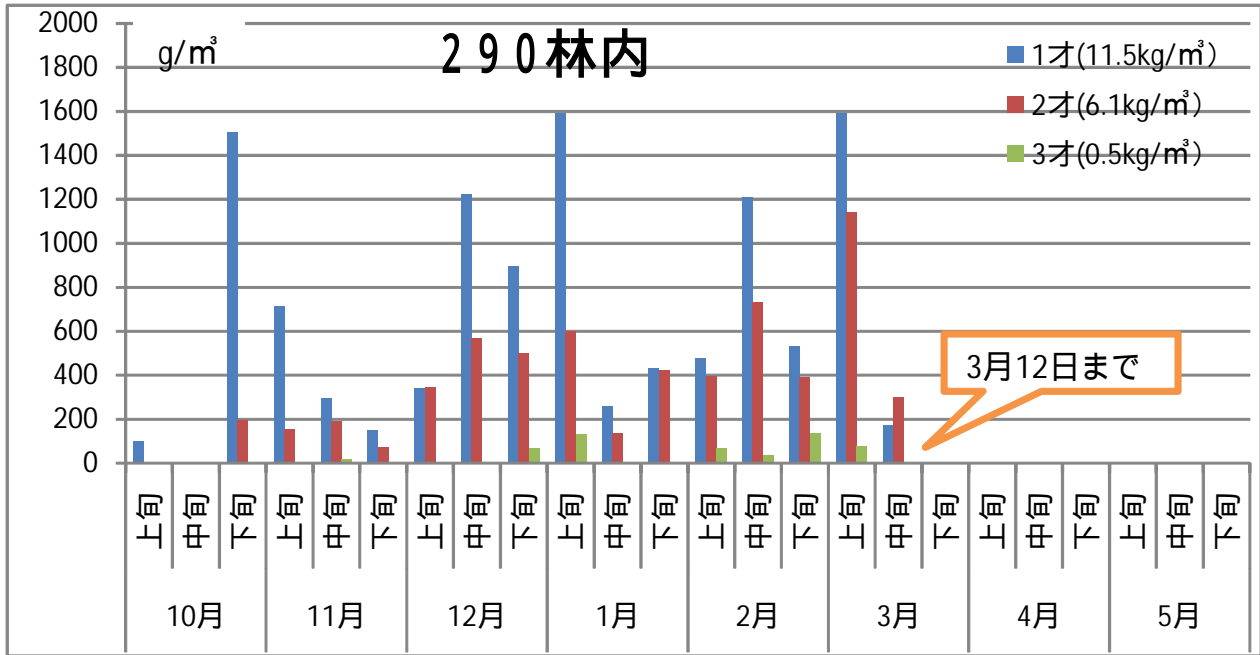
ア 121について



イ 115について

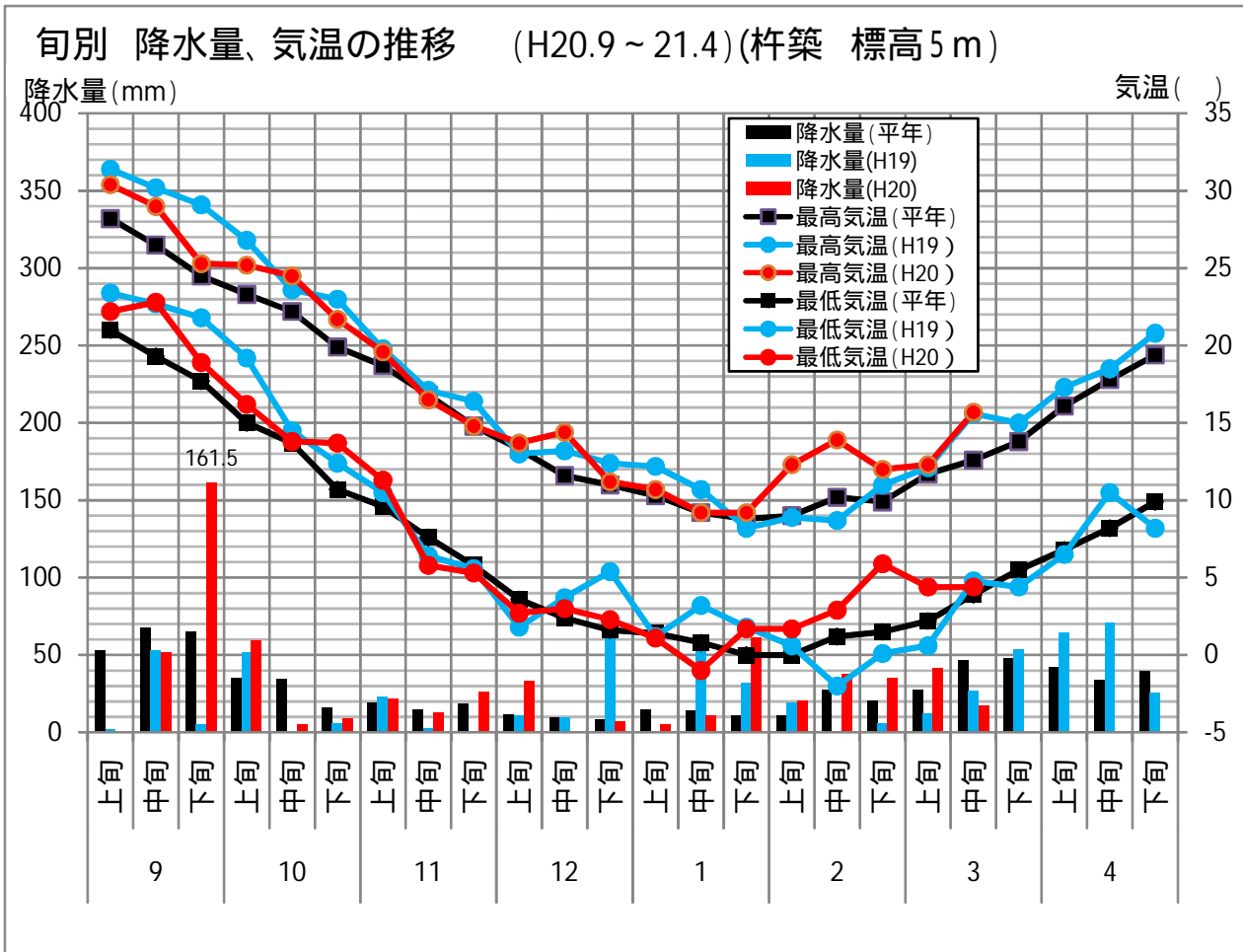


ウ 290について



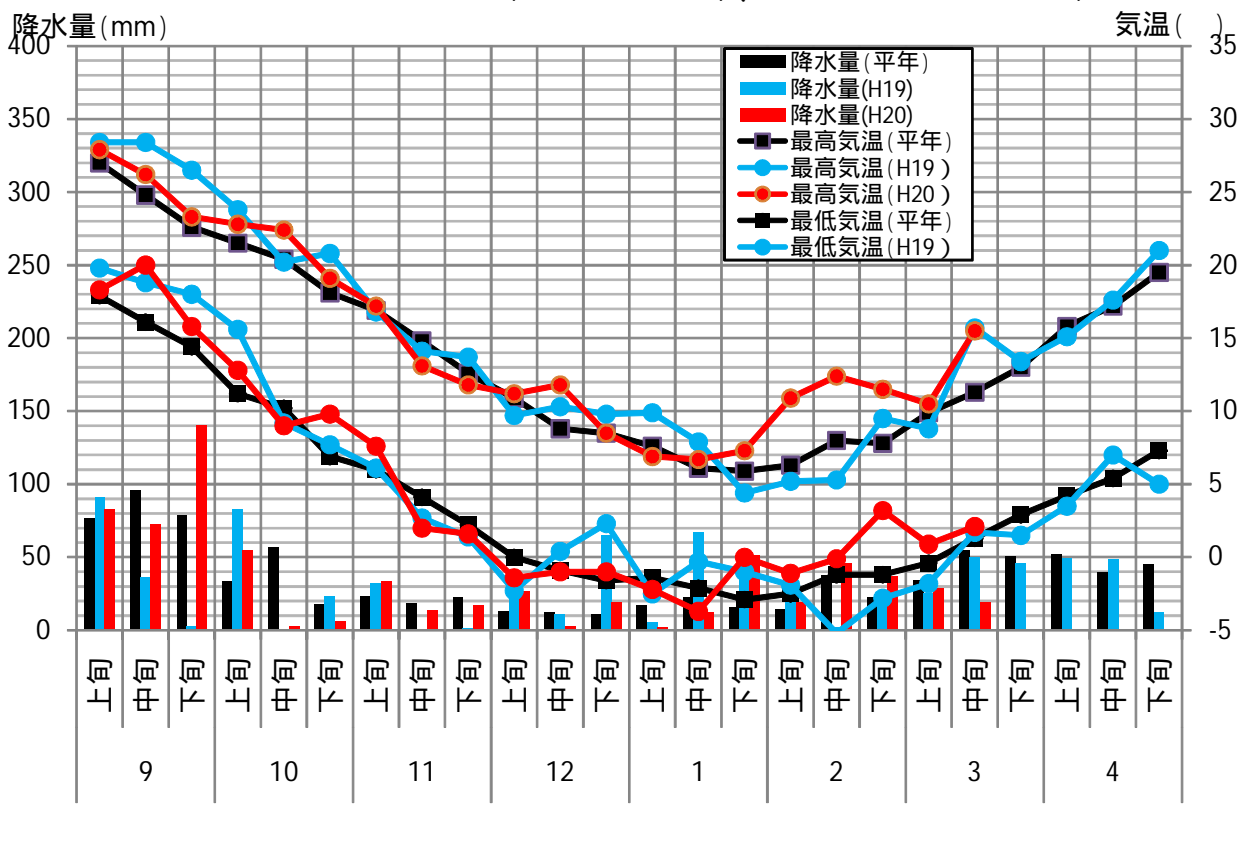
栽培地の温度(標高)、雨量等が違いますので、それぞれ違いはあると思いますが、きのこの研究所データでは、121は2月に2才ほだを中心に集中発生し、115は昨年末からダラダラと分散発生、290は、発生が遅れ1才、2才ほだ木を中心に年末年始と2月中・下旬に発生のパークがきており、現状で収穫が一区切りした状況です。

エ 旬別降水量、気温の推移について



杵築市の降水量、気温の推移から、皆さんご存じのとおり、気象条件は1月下旬の降水と2月の急激な温度上昇により例年よりも早い春子となりました。

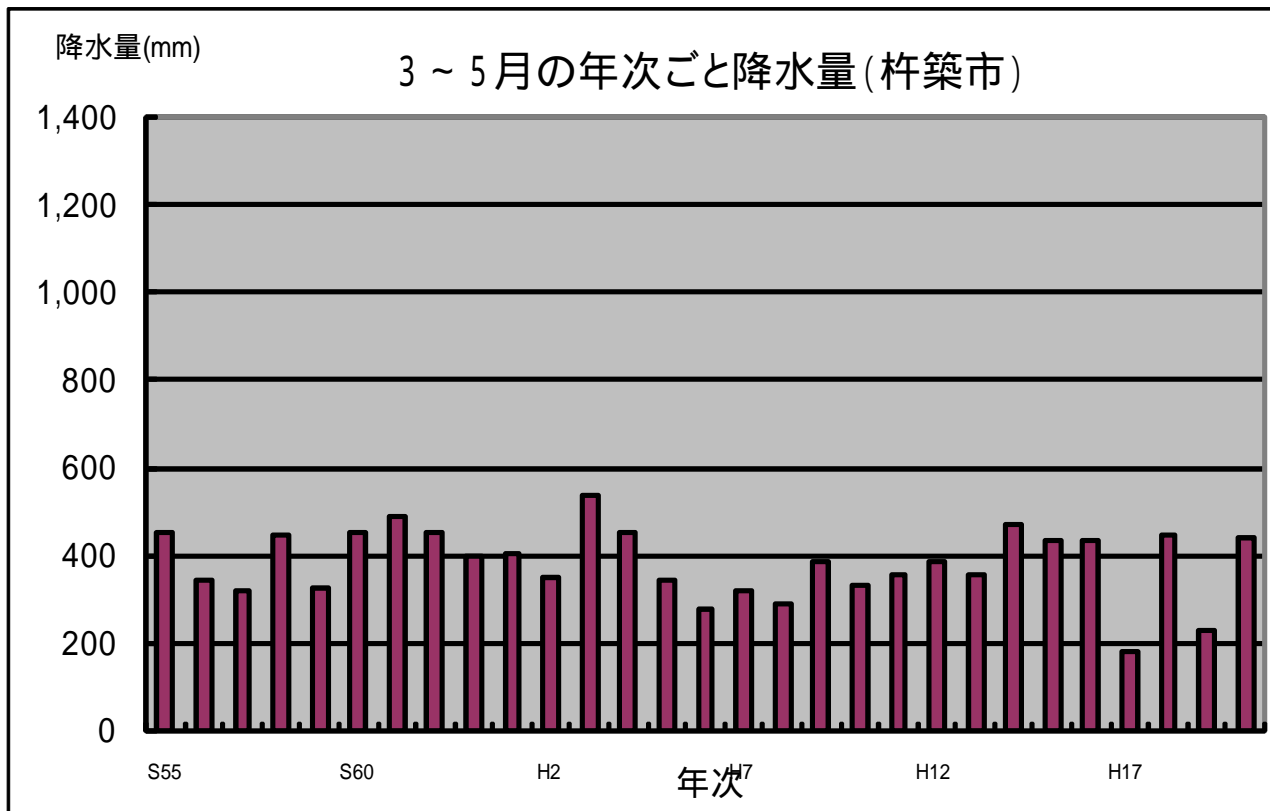
旬別 降水量、気温の推移 (H20.9 ~ 21.4)(湯布院 標高435m)



湯布院についても2月の急激な気温上昇の傾向は同様です。  
いずれにせよ、3月下旬の気温低下による芽切りに期待したいものです。

(2) 植菌から伏込について

植菌後の水分管理は非常に重要です。特にH17,19年の降水量は軒並み少ない雨量となりました。植菌作業後の初期活着を確実にを行うためにも原木の状況を見ながら、仮伏せや水分管理を行ってください。

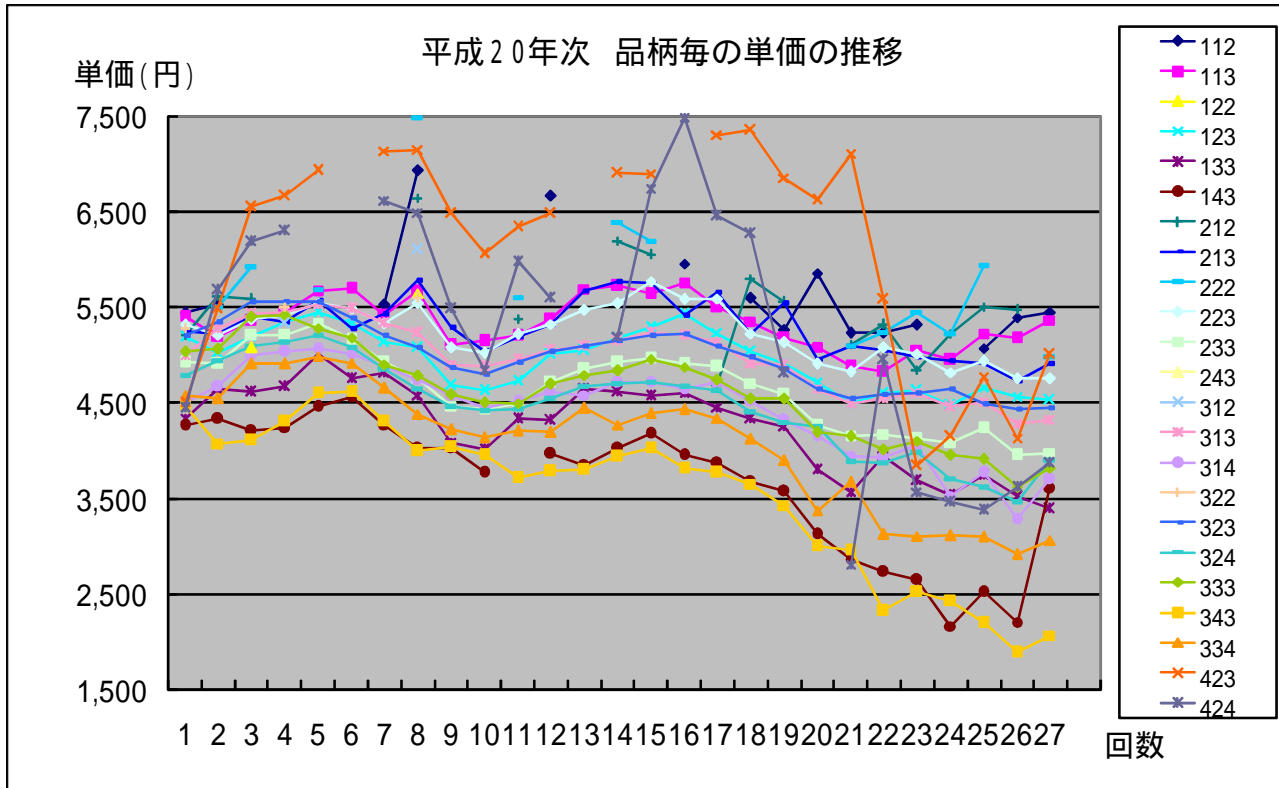


### 散水が可能な場所でほだ木づくりを行う場合

【方法】木片駒の場合、植菌後ほだ木を棒積みにし笠木やダイオネット等で覆い、一晩十分散水する。その後降雨がなければ2日～4日毎に2時間程度の散水を行い、5月には、本伏せに移行する。本伏せ後も降雨がなければ週に1度2時間程度の散水を行う。気温が上昇する夏場の散水は、夕方に行う。

【場所】水はけが良く、日当たり、通風の良い場所。

## 2 単価向上



昨年度の品柄別の単価の推移です。全半は極小系が単価を下支えしていた傾向がよくわかります。後半は椎茸のサイズで単価の開きが出てきています。

## 3 コスト削減

きのこ研究所では既存乾燥機を用いた乾燥技術の効率化に関する研究に取り組んでいます。乾燥開始時から庫内循環の利用により燃料消費量を削減する方法ですが、「煮え子」発生の危険性もあるため、普及用の乾燥スケジュールを現在作成中です。今後は現場での実証試験等も検討しています。

全国・県品評会に先立ち、第3回東部地区乾椎茸品評会を開催します。

**!! 皆様のご参加をお待ちしています。 !!**

(審査 表彰式・講演会)	日時	4月27日(月)
	日時	4月30日(木) 9:30 ~ 12:00
	場所	国東市安岐総合支所 2階大会議室
	内容	品評会表彰式 講演会 ほだ場ワークスペース初展示 シカ対策の取り組み等

大分県東部振興局生産流通部  
野菜・椎茸班 担当 栗林(国東市エリア)  
河野(別府市・杵築市・日出町エリア)